



# 2017年度情報検索委員会 2-1WG 「商用特許 D B の比較検討」

2018/11/20 関東部会

2018/11/29 関西部会

メンバー：	太田 文徳	株式会社ブリヂストン	(関東部会発表者)
	加地 英之	住友重機械工業株式会社	(関西部会発表者)
	山口 直人	株式会社村田製作所	
	山崎 勇二	三菱ケミカル株式会社	
	吉川 睦	花王株式会社	
	西戸 真紀	ライオン株式会社	
	塩崎 義晃	三菱重工業株式会社※	

※活動時所属



# 目次

- 1) 背景、活動目的
- 2) 商用特許 D B と業務効率化
  - 2-1) 業務効率化課題
  - 2-2) D B 比較：検索効率化（収録）
  - 2-3) D B 比較：検索効率化（機能）
  - 2-4) D B 比較：教育・支援
- 3) まとめ



# 1) 背景、活動目的

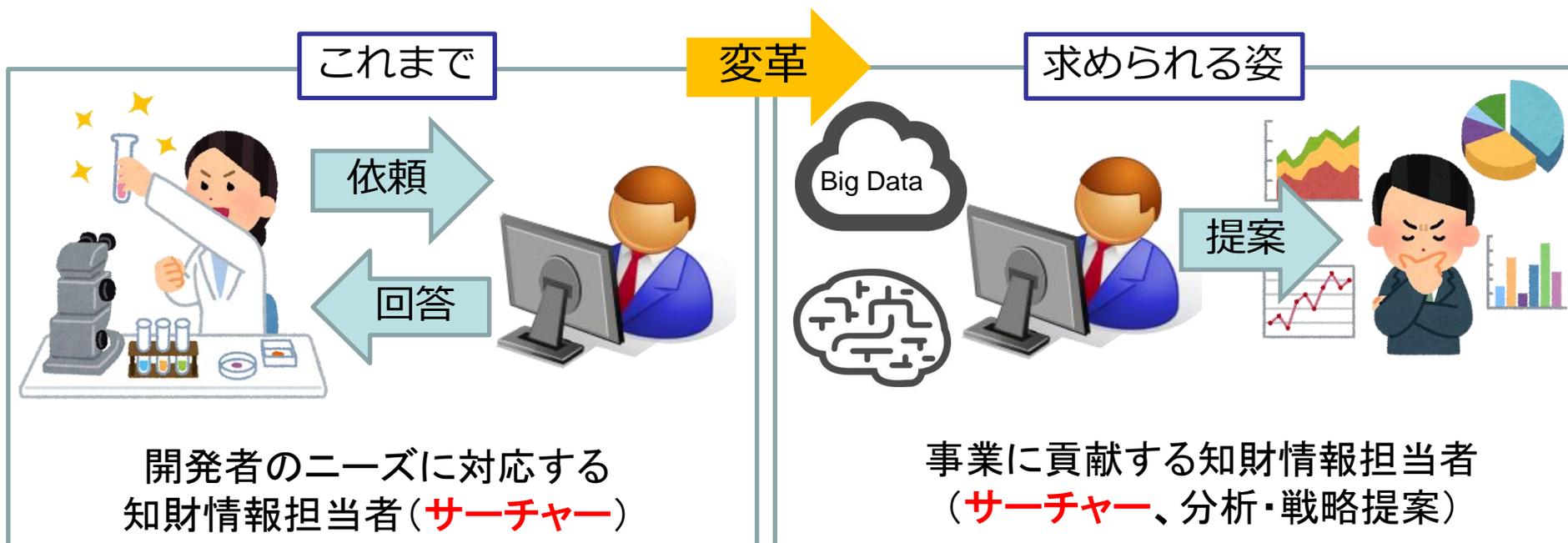


# 背景

## ◆ 背景

### 知財情報担当者の役割に大きな変化が到来

参考：知財人材スキル標準（version 2.0）2017年4月 特許庁総務部企画調査課



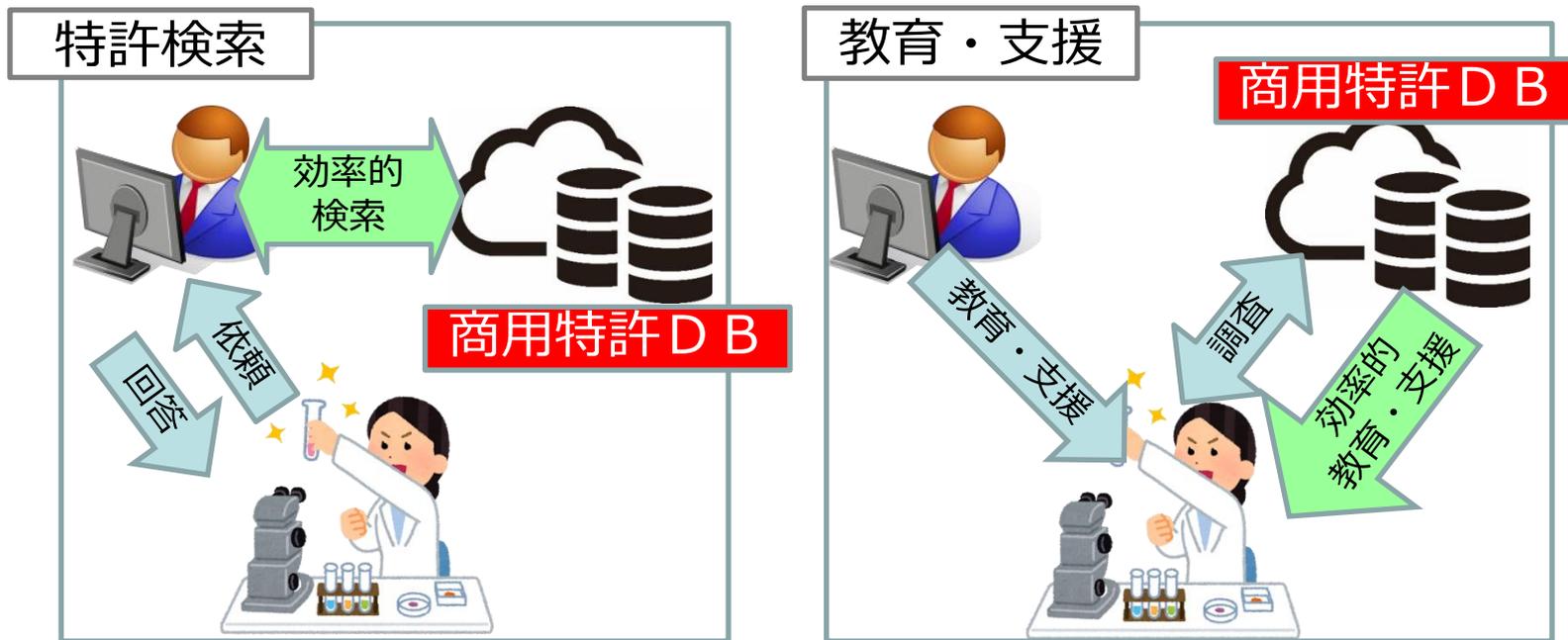
求められる姿（提案型業務）への変革は、分析・戦略提案に関する能力向上とともに、これまでの業務（サーチャー）の効率化も不可欠



# 活動目的

## ◆ 活動目的

知財情報担当者のこれまでの業務（特許検索と教育・支援）において、日常的に使用する業務用ツール＝商用特許データベースに着目し、業務効率化に寄与する機能・サービスを調査



商用特許DBに関して、業務効率化推進する上での課題や、DB導入時に着眼すべき新たな視点を参考情報としてJIPA会員企業に提供



## 2) 商用特許 D B と業務効率化

### 2-1) 業務効率化課題



# 業務効率化課題

## ◆ 課題の抽出

- ・業務効率化に関する課題は、『検索効率化』、『教育・支援』の観点で本WGのメンバーが日常的に感じている具体的な課題を抽出
- ・課題を抽出した結果、検索効率化に関しては「収録」と「機能」に大別された
- ・商用特許DBの現状を把握するため、抽出された課題に関連する機能やサービスについて複数の商用特許DBベンダーに対してアンケートを実施

課題			課題に関連するDB機能やサービス（一例）
業務効率化	検索効率化	収録	各国法的情報の検索・表示・閲覧、データ出所の多さ、データの整理状況（分類情報の保持がファミリー単位/公報単位、最新の付与分類に更新される/過去分に追加、更新頻度等）等
		機能	セマンティック検索、分析機能、辞書機能、翻訳機能、SDI、ウォッチング、ハイライト機能、誤字修正機能、近傍検索、海外日本語検索
	教育・支援		概念検索、サポート機能、セミナー



# アンケート

## ◆ アンケート対象DB

- ・アンケートの回答が得られた商用特許DBベンダーは下表の15社※<sup>1</sup>で、対象DBは18システム※<sup>2</sup>となった。

システム名	システム提供元
Orbit Intelligence	QUESTEL, (代理店) 中央光学出版株式会社
Gold fire	サイバネットシステム株式会社
JP-NET <sup>®</sup>	日本パテントデータサービス株式会社
HYPAT-i2	株式会社発明通信社
Derwent Innovation <sup>™</sup>	クラリベイト・アナリティクス
PatentSQUARE	パナソニックソリューションテクノロジー株式会社
JAPIO-GPG/FX	一般財団法人 日本特許情報機構 (JAPIO)
PAT-LIST-CN/WEB	株式会社レイテック
TOTALPATENT <sup>®</sup> TOTALPATENT One <sup>®</sup>	LexisNexis <sup>®</sup>
STN <sup>®</sup>	CAS, FIZ Karlsruhe, 化学情報協会
SciFinder <sup>®</sup>	CAS, FIZ Karlsruhe, 化学情報協会
日本版CNIPR	IPPH, (代理店) 株式会社プロパティ
Sharesearch <sup>®</sup>	株式会社日立製作所

※1 非開示希望で2社2システムが表に含まれておらず。

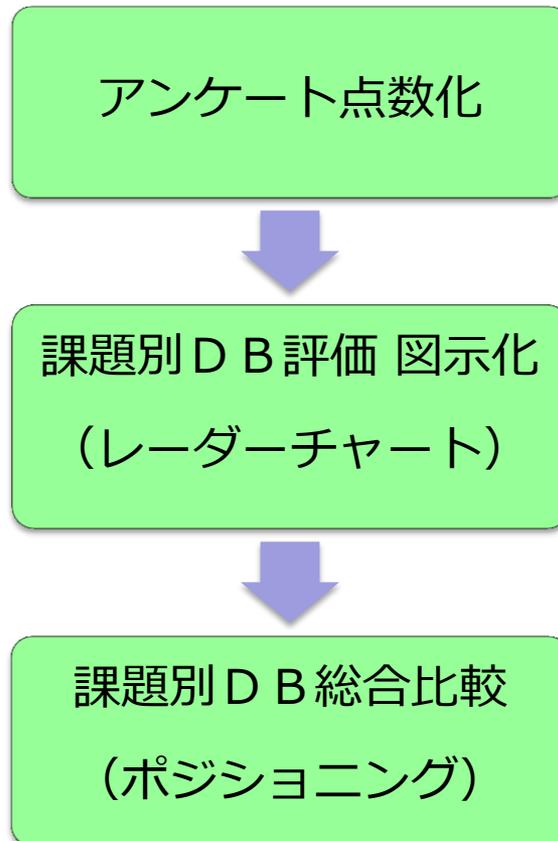
※2 国内、国外で分けた形での問い合わせ、2システム有り。



# アンケート結果

## ◆ アンケート結果を用いたDB比較

- アンケート結果は一覧表として纏めるのではなく、点数化した後、3課題別に評価の図示化（レーダーチャート、ポジショニング）を行い、各特許DBを相対的に把握できるような形とした。





## 2) 商用特許 D B と業務効率化

### 2-2) D B 比較：検索効率化（収録）

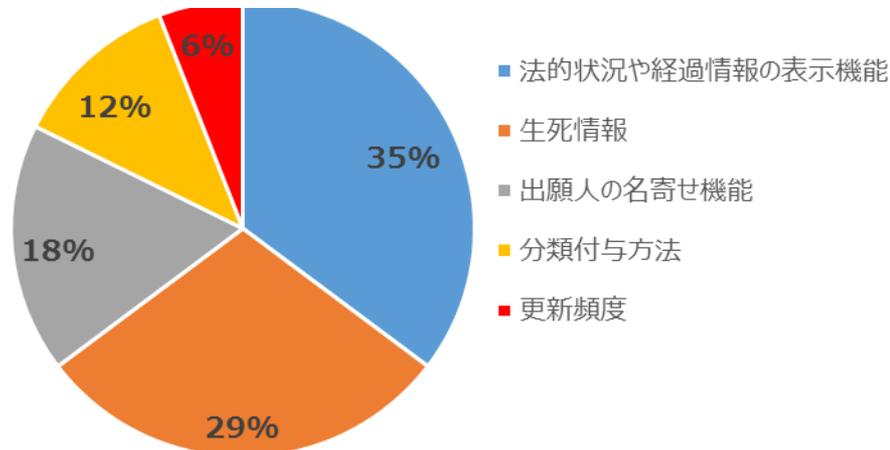


# アンケート点数について（収録）

## 【着目点・留意事項】

- ・収録では、メンバー内でニーズの高かった内容として
    - ・各国リーガルステータスの検索・表示・閲覧の各機能
    - ・生死情報（生死判定）
    - ・データ出所の多さ
    - ・データの整理状況（分類情報の保持がファミリー単位/公報単位、最新の付与分類に更新される/過去分に追加、更新頻度等）
- の項目が挙げられた
- ・メンバーが「収録の課題」と感じた項目に対する機能が充実しているDBが高得点の傾向にある

### 検索効率化（収録）配点の割合





# アンケート点数化 (収録)

生死情報：米国におけるPTAやTerminal Disclaimerといった権利期間修正を評価  
 特許分類の収録：検索モレを軽減できるため「蓄積型」「ファミリー型」の点を評価

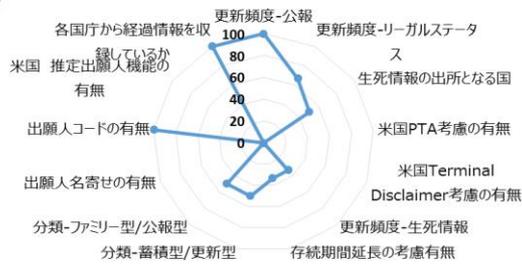
大項目	中項目	小項目	基準	点数	
データ収録と 関連機能	更新頻度	公報の収録頻度	公報データ入手の都度	3	
			1回/週	2	
			1回/週より低い	1	
	更新頻度	リーガルステータスの更新頻度	データ入手の都度	3	
			1回/週	2	
			1回/週より低い	1	
	生死情報	データの出所	出所 US,CN,EP等から3カ国以上	4	
			出所 US,CN,EP等から2カ国	3	
			出所 US,CN,EP等から1カ国	2	
			出所 Inpadoc/JPのみ	1	
		米国は、調整期間 (PTA) を考慮しているか	考慮している	1	
			考慮していない	0	
		米国は、Terminal Disclaimerを考慮しているか	考慮している	1	
			考慮していない	0	
		生死情報の更新頻度	生死情報の更新頻度	データ入手の都度	3
				1回/週	2
	1回/週より低い			1	
	特許の存続期間延長の考慮	特許の存続期間延長の考慮	存続期間延長の考慮あり	1	
			存続期間延長の考慮なし	0	
	特許分類の収録 方法	付与分類に変更があった場合、変更後の分類が追加される のか (蓄積型)、又は分類が置換えられるのか (更新型)	蓄積型	2	
			更新型	1	
		ファミリー型か公報型か	ファミリー型	2	
	出願人の名寄せ	名寄せの有無	あり	1	
			なし	0	
		出願人コードの有無	あり	1	
			なし	0	
		推定出願人の機能 (米国の発明者による出願について)	あり	1	
なし			0		
リーガルステー タスの出所	各特許庁からデータを入れている国	複数 (国) のデータあり	3		
		Inpadocと他の1カ国	2		
		Inpadocのみ/回答なし	1		



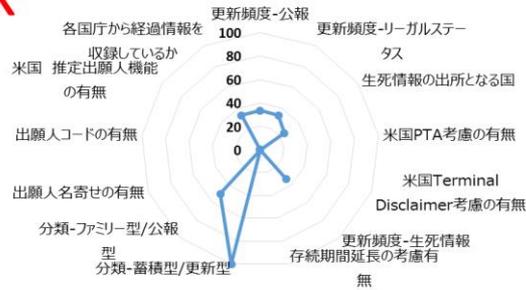


# レーダーチャート (収録) 2/2

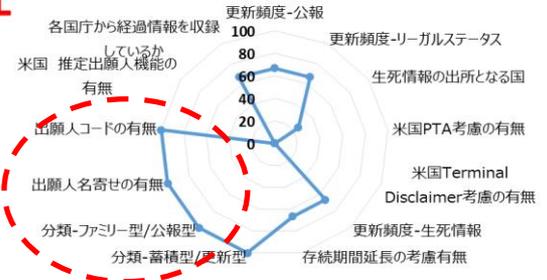
J



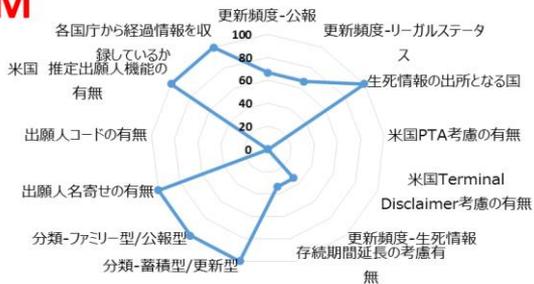
K



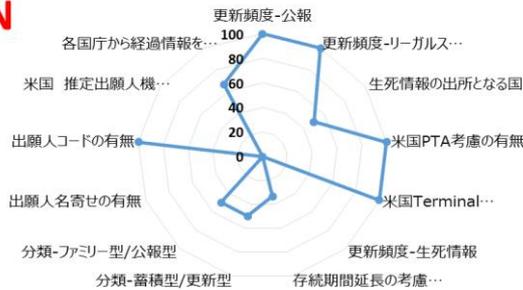
L



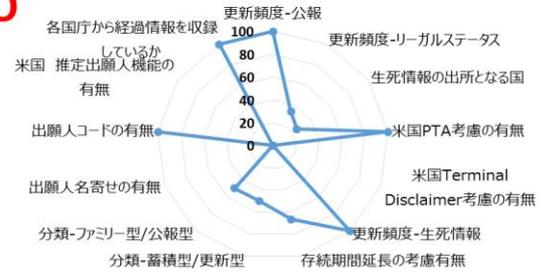
M



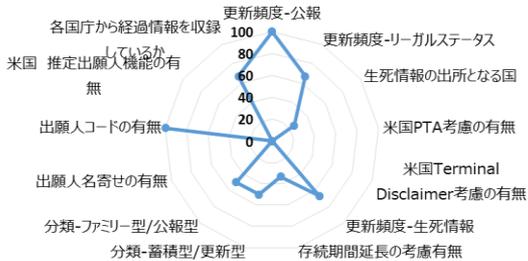
N



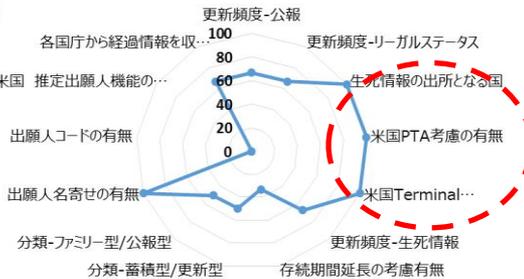
O



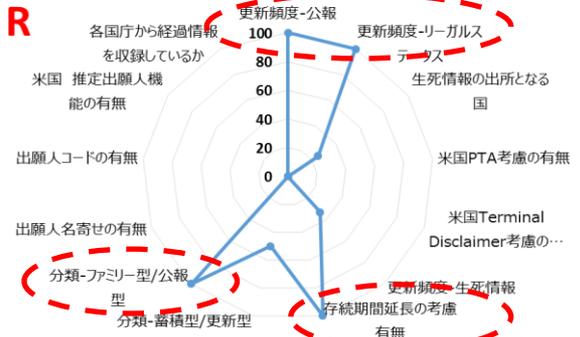
P



Q



R



◆米国の生死に関わる詳細情報、出願人情報、分類情報の蓄積/更新などで、データベースにより違いがある





# ポジショニング

## 縦軸

各データベースを

①操作の簡便さ、②料金、③メンバー所属組織での利用実態 から3つに分類

### 【プロ向け】

調査担当者が主に利用

多機能だが、適切で精度の高い検索を行うには習熟が必要

### 【エンドユーザー向け】

開発担当者等にIDを配布し、広く利用できる

初心者モードや検索サポート機能などがあり操作が簡便

オプション等により多機能で高度な検索ができる場合でも、カンパニー契約で広く利用できる場合はエンドユーザー向けに含む

### 【中間】

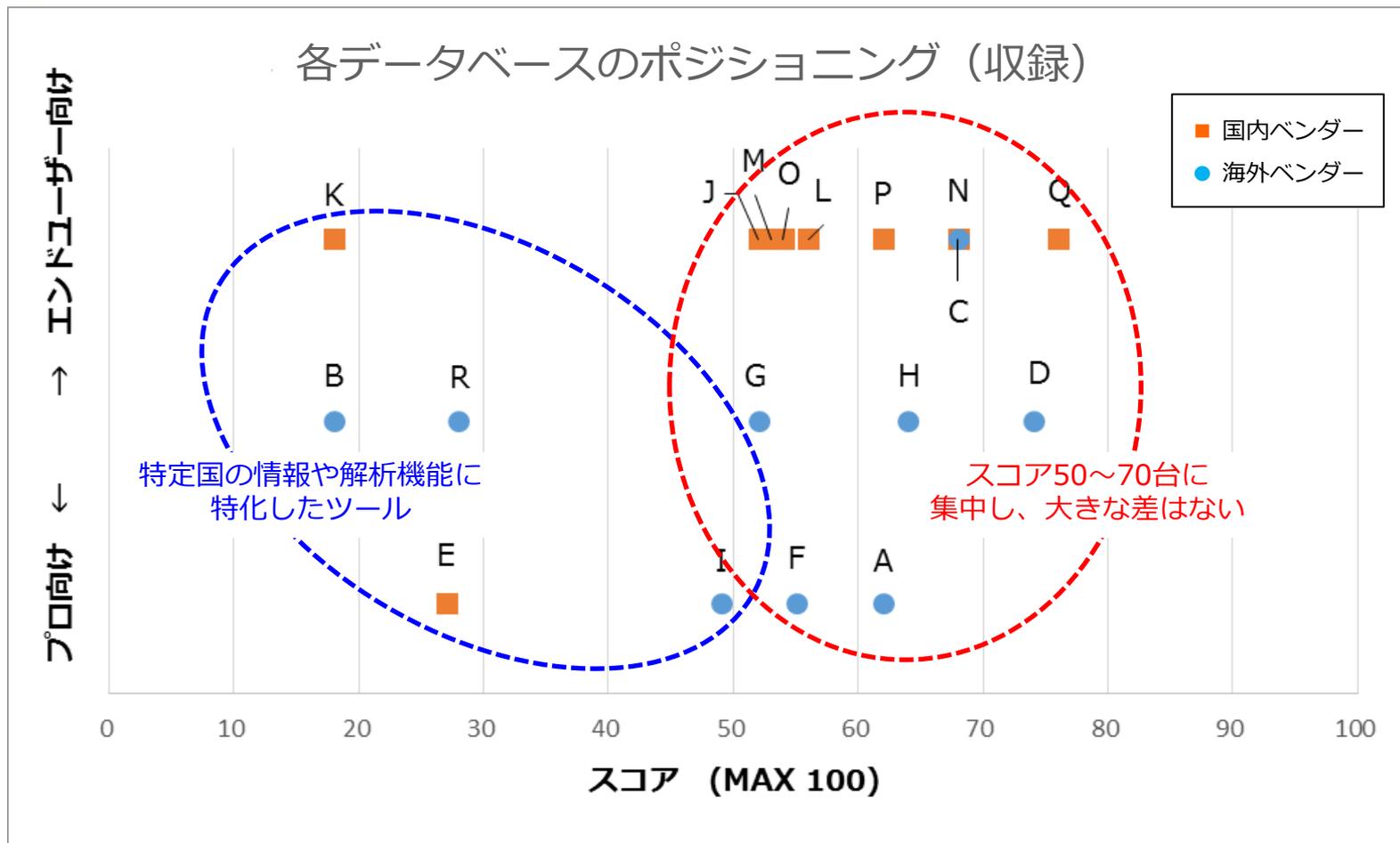
上記2者の中間的データベース（プロ、エンドユーザー両方に対応）

## 横軸

アンケート各項目の合計（相対値）



# ポジショニング（収録）



- ◆収録とそれに関する表示機能では、大きな差はない（情報・機能特化型を除く）
- ◆エンドユーザー向けツールにリーガルステータスや生死情報等も充実しているものが多く、ワンストップで済む利便性が特長になっている



## 2) 商用特許 D B と業務効率化

### 2-3) D B 比較：検索効率化（機能）

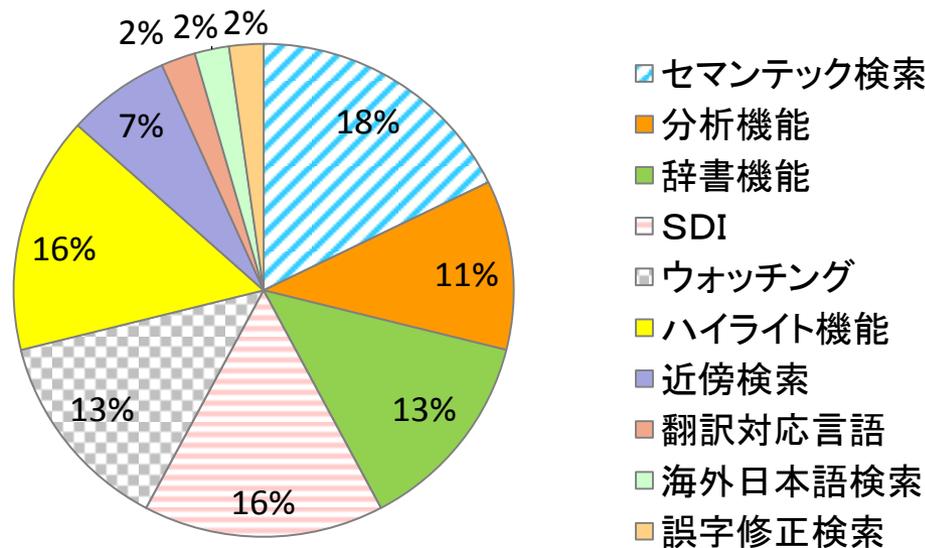


# アンケート点数について（機能）

## 【着目点・留意事項】

- 機能の大項目は、**セマンティック検索、分析機能、辞書機能、翻訳機能、SDI、ウォッチング、ハイライト機能、誤字修正機能、近傍検索、海外日本語検索**の10項目
- 配点の割合の高い項目の機能の有無や性能差で差がつきやすい傾向あり
- セマンティック検索は、搭載してるシステムが少ないが、配点が多いため、機能があると高得点になりやすい
- SDIやウォッチングは、ある程度配点が高く、点数の付与が細かかったため、差がつきやすい
- 重点的な評価対象となっていない海外日本語検索や学術文献検索などに特化して強化されているシステムは、点数が付きにくい傾向にある

検索効率化(機能) 配点の割合





# アンケート点数化（機能） 1/4

セマンティック機能:検索効率化への影響が大きいいため、詳細な項目を調査

分析機能：他の分析ツールとの接続性など使い勝手の機能を中心に評価

大項目	小項目・説明		基準	点数
セマンティック検索	検索対象の範囲	全文か一部部分（要約、請求項など）か	全文（要約、請求項含む）	2
			タイトル・抄録・請求項（全文含まず）	1
			機能なし、回答なし	0
	対象国	どの国か	JP, US, EP, WO, CNなどから3か国以上	4
			JP, US, EP, WO, CNなどから2か国以上	3
			JP以外の1か国（日本版は別途あり）	2
			JPのみ	1
			機能なし、回答なし	0
	対応言語	対応言語を入力	他国語入力 ⇒ 日本含む他国検索	3
			日本語入力 ⇒ 日本含む他国検索	3
			他国語入力 ⇒ 他国検索（日本版は別途あり）	2
			他国語入力 ⇒ 他国検索（日本版はなし）	1
			日本語入力 ⇒ 日本検索（日本ベンダー）	1
			機能なし、回答なし	0
	検索対象項目	抄録のみ、請求項のみ、全文など	全文（要約、請求項含む）	2
			タイトル・抄録・請求項（全文含まず）	1
			機能なし、回答なし	0
	非特許文献の可否	非特許文献の検索も可能か	可	1
否			0	
表示結果	スコア、類似度（%）など	スコア or 類似度	1	
		なし、回答なし	0	
表示件数	1度に表示できる件数	制限なし	3	
		1000件以上	2	
		1000件未満	1	
		機能なし、回答なし	0	
ハイライト	機能の有無	有	1	
		無	0	
分析機能（マップ作成機能）	他分析ツールとの接続性	DBと接続可能な分析ツールの有無	有	1
			無	0
	マップの種類	作成できるマップの種類	複数	2
			1種類	1
			機能なし、回答なし	0
	統計／解析後	統計／解析結果から該当公報にジャンプ可能か	可	1
			否	0
	2次解析	1次解析の該当母集団無内での2次解析が可能か	可	1
			否	0
	表示機能	マップ中に分類説明を表示可能か	可	1
否			0	



# アンケート点数化（機能） 2/4

SDIとウォッチング：期間の設定を細かく評価

特徴的な評価項目：シンプルファミリSDI→公報単位のSDIではなく、発明単位でのSDI

大項目	小項目・説明		基準	点数
SDI	間隔の設定(期間の設定)	毎週 OR 毎月等	リアルタイム・任意	4
			毎週・毎月・毎日	3
			毎週・毎月	2
			毎週	1
			機能なし、回答なし	0
			機能なし、回答なし	0
	式設定	エンドユーザ OR 管理者	エンドユーザー及び管理者	3
			エンドユーザー	2
			管理者	1
			機能なし、回答なし	0
	複数配信	複数のユーザへの同時配信は可能か	可	1
			否	0
2次配信	配信された結果を別ユーザへの配信は可能か	可	1	
		否	0	
しおり機能	しおり機能の有無	有	1	
		無	0	
シンプルファミリSDI	シンプルファミリでSDIが可能か	可	1	
		否	0	
		SDIが可能な場合、PCT出願の言語について限定可能か（日本語優先、英語優先、代表のみ等）	可	1
		否	0	
ウォッチング	間隔の設定(期間の設定)	毎週 OR 毎月等	リアルタイム・任意	4
			毎週・毎月・毎日	3
			毎週・毎月	2
			毎週	1
			機能なし、回答なし	0
			機能なし、回答なし	0
	式設定	エンドユーザ OR 管理者	エンドユーザー及び管理者	3
			エンドユーザー	2
			管理者	1
			機能なし、回答なし	0
	複数配信	複数のユーザへの同時配信は可能か	可	1
			否	0
	2次配信	配信された結果を別ユーザへの配信は可能か	可	1
			否	0
	しおり機能	しおり機能の有無	有	1
無			0	
ウォッチングレベルの設定機能	重要な情報が変化したときのみ発信する等の設定は可能か	可	1	
		否	0	



# アンケート点数化（機能） 3/4

辞書機能：基本的項目を有無で評価

ハイライト機能：査読の効率化に寄与するとのWG内での議論を通じ、詳細な機能評価

大項目	小項目・説明		基準	点数
辞書機能	同義語		有 無	1 0
	類似語		有 無	1 0
	異表記		有 無	1 0
	出願人		有 無	1 0
	発明者		有 無	1 0
	上記項目の辞書への追加は可能か		可 否	1 0
ハイライト機能	検索時に自動で付与される機能はあるか		有 無	1 0
	ハイライト対象の単語を自分で指定可能か	例：検索式に用いていない単語等	可 否	1 0
	複数色でのハイライトは可能か		可 否	1 0
	ハイライトの変更(色、用語)は可能か		可 否	1 0
	ハイライト部分の文献全体での位置表示	例：特許庁の閲覧室の検索システムにあるような機能	有 無	1 0
	ハイライトを付けたまま印刷できるか		可 否	1 0
	ハイライトを付けたままデータをダウンロードできるか	例：PDF公報にハイライトを付けてダウンロードできるかなど	可 否	1 0



# アンケート点数化（機能） 4/4

近傍検索：調査範囲の設定でより細かい区切りで設定できるかを評価

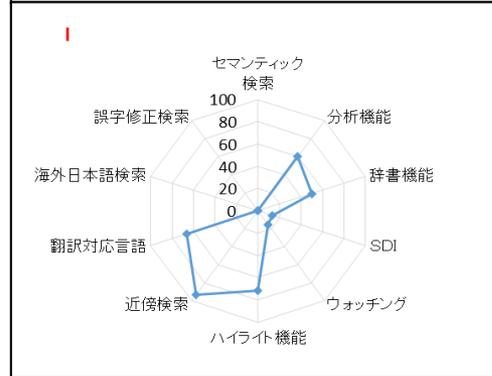
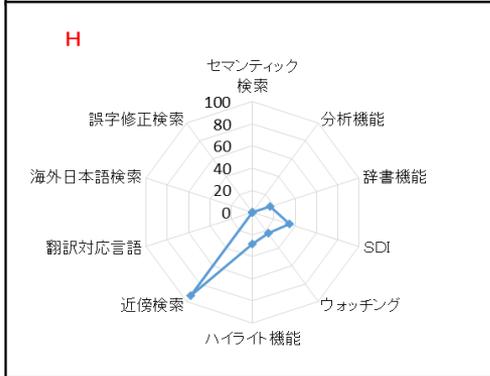
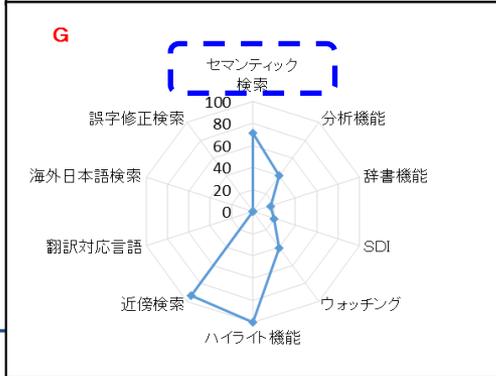
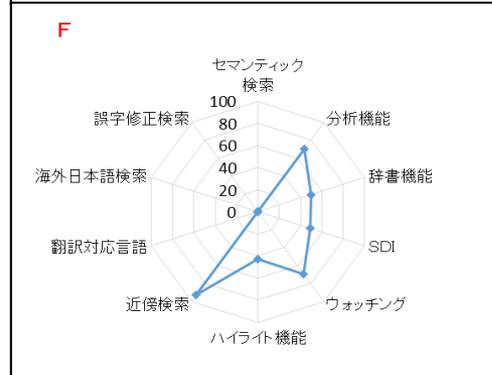
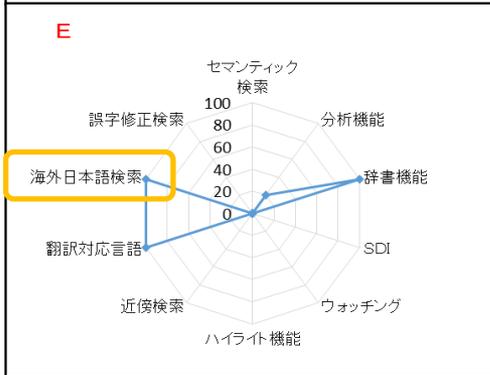
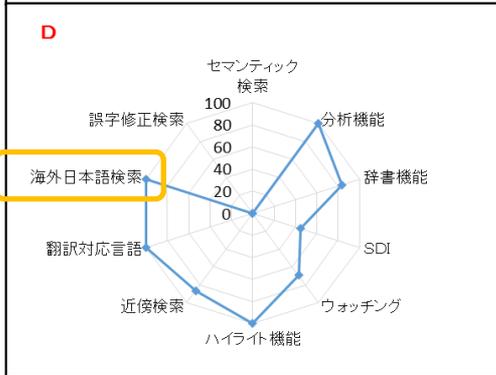
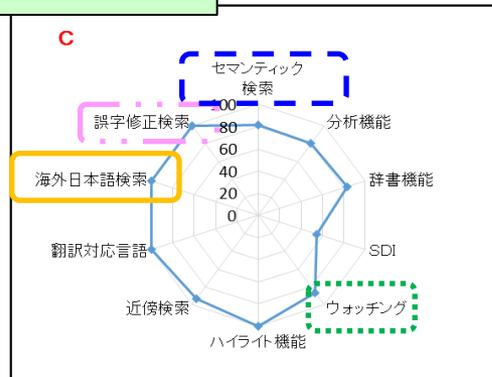
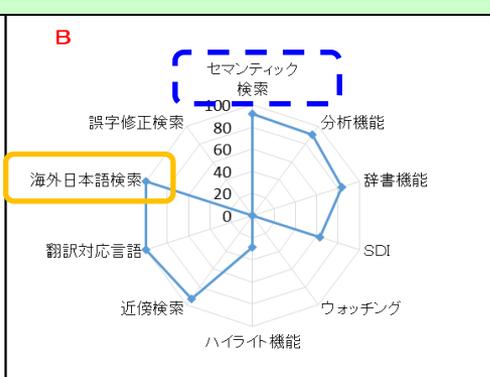
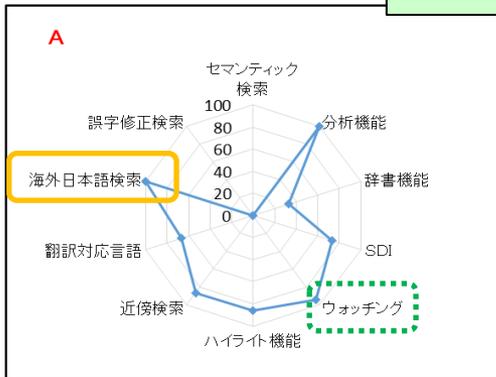
日本語検索：日本語で海外特許の検索を行う機能を評価

大項目	小項目・説明		基準	点数
近傍検索	順方向の近傍検索は可能か		可	1
			否	0
	順不方向の近傍検索は可能か		可	1
			否	0
	近傍検索の調査範囲の設定	どの範囲を設定できるのか（同一センテンス、段落など）	句読点レベル	5
			文章	4
段落			3	
請求項・要約など			2	
		全文	1	
		機能なし・回答なし	0	
翻訳機能	対応言語		日・英・中	3
			日・英	2
			英のみ	1
			翻訳機能なし	0
誤字修正検索	誤字を修正して検索する機能があるか	例：カタカナ表記の化学物質名にひらがなが入っていた場合、修正して検索されるか（ひらがなの“へ”とカタカナの“へ”など）	可	1
			否	0
日本語検索	日本語での海外特許検索は可能か	翻訳を通じて現地語での検索は可能か	可	1
			否	0



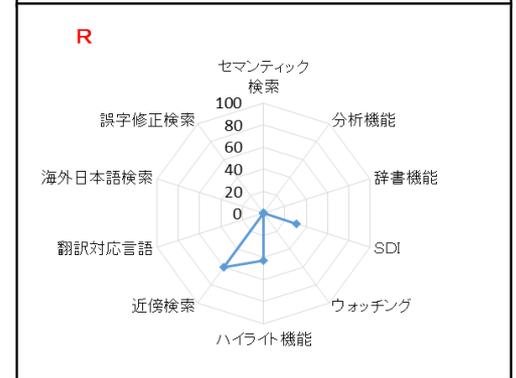
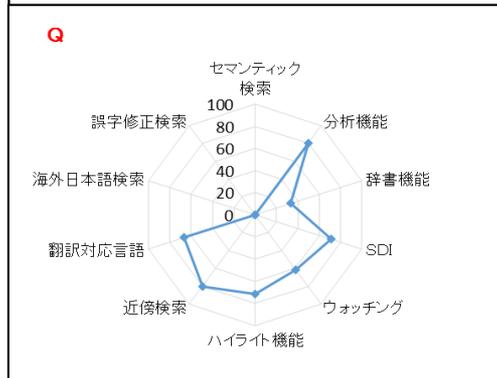
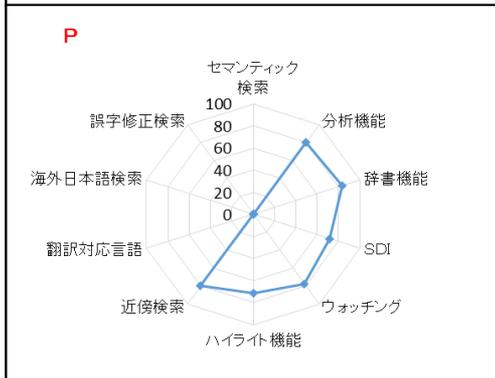
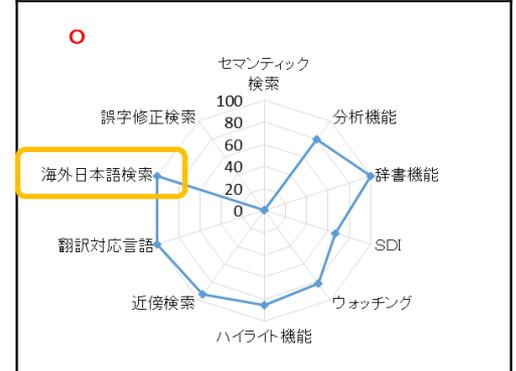
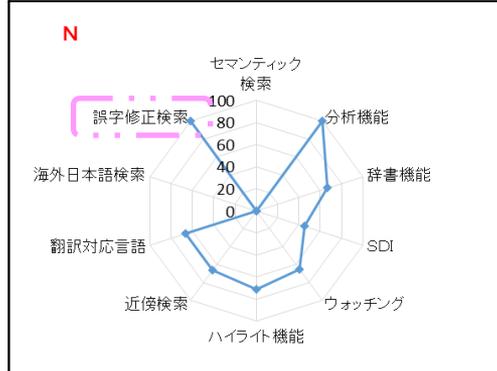
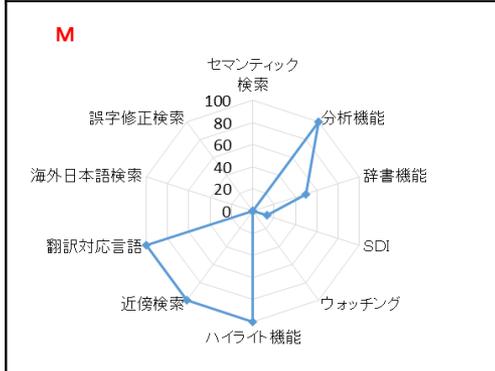
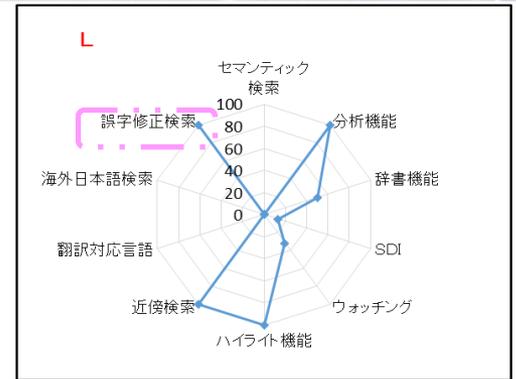
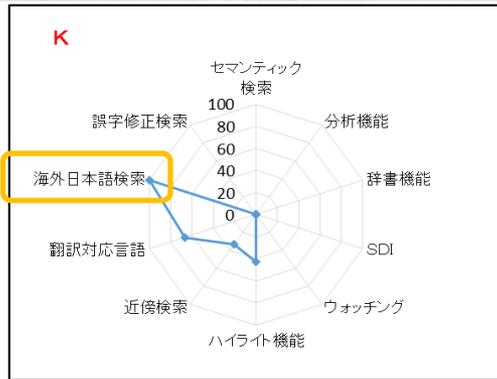
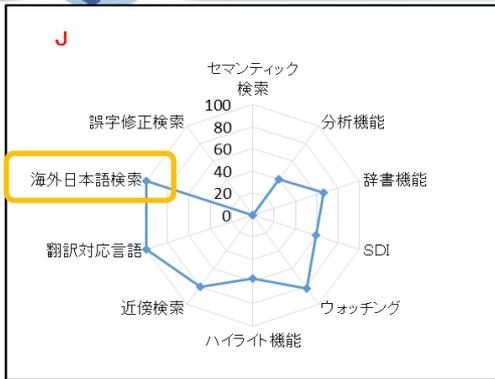
# レーダーチャート (機能)

## 機能課題の大項目10項目でまとめたレーダーチャート





# レーダーチャート (機能)

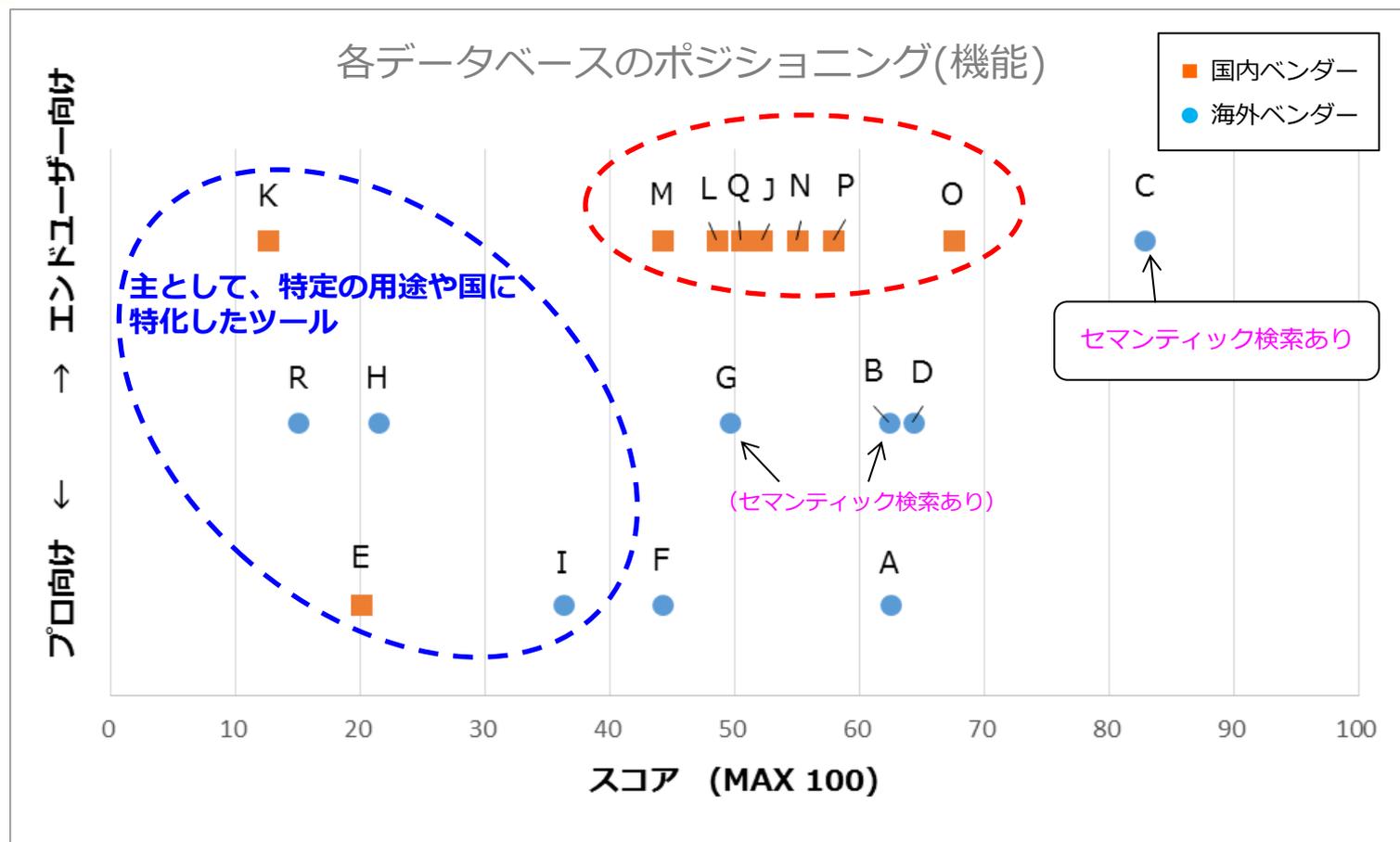


◆ 海外日本語検索や、誤字修正検索の有無は、DBではっきり分かれ特徴的。  
 対して、分析機能は最近充実してきているものが多く、差が付きにくい傾向





# ポジショニング（機能）



- ◆ **セマンティック検索機能**をもつDBは比較的高得点になっている。
- ◆ エンドユーザー向けのDBは、**真ん中のスコア**に固まっているが、項目により機能差が存在する。これを考慮しつつDBを選択するとよいと思われる。
- ◆ プロ向けでは、単なる各機能の得点だけでなく、どこの国が対象か、DB間をまたがって詳細検索ができるかなど**用途別**に検討する必要がある。



## 2) 商用特許 D B と業務効率化

### 2-4) D B 比較：教育・支援

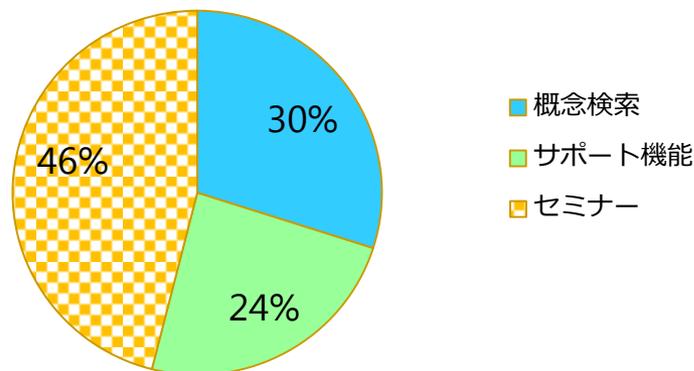


# アンケート点数について（教育・支援）

## 【着目点・留意事項】

- ・特許分類の階層構造や必要なKWを網羅する検索方法は、年次教育だけでは習得できない。調査担当者が個別レクチャーする頻度、場所、使用DBの違いなどを考慮すると、調査教育を補助する機能の重要性が示唆される。そのような機能・サービスとして「**概念検索**」「**サポート機能**」「**セミナー**」に着目し、教育・支援の大項目とした。
- ・アンケート項目は、メンバーにとって業務で必要（あれば便利）と感じている機能やサービスを中心に構成されており、採点基準もメンバーの業務に対する考えのもとで決められている。従って、メンバーが業務で必要（あれば便利）と感じている機能を備えていたり、サポートやセミナー内容が、実業務に対して充実していると感じる場合、そのデータベースの点数が上がるような採点方法となっている。
- ・概念検索はエンドユーザーへの検索手法教育の低減につながるとして、教育・支援の課題に含めた。

教育・支援 配点の割合





# アンケート点数化（教育・支援） 1/3

## 【セミナー】

- ・「オンラインセミナー」、「ベンダー側が提供する講習会場でのセミナー」、「ベンダー側からの講師派遣によるセミナー」の3つに分けて、それらの実施体制を評価
- ・項目の中で、教育担当者が所属する環境や状況に由来するニーズに対応してもらえたり、検討してもらえる場合に高得点になるように基準を設定
- ・なお、3つの実施形態のうち、どの形態が一番高得点ということではなく、WGメンバーが認識している実施形態を並べたにすぎないことに留意

大項目	中項目	小項目	基準	点数	
セミナー	①オンラインセミナー (E-ラーニング等、WEB上での講義)	セミナーの有無	あり	2	
			応相談・検討中	1	
			なし、回答なし	0	
		頻度	年単位	2	
			応相談	1	
			なし、回答なし	0	
		②講習会場受講オフラインセミナー (ベンダー提供会場でユーザーが受講)	料金	無料	2
				応相談	1
				有料、回答なし	0
	③講師派遣オフラインセミナー (ベンダー側講師が企業等で講義)	講習内容のカスタマイズ(受講者のレベル 技術分野等に対応)	可	2	
			応相談	1	
			不可、回答なし	0	
		練習問題	あり	1	
			なし、回答なし	0	
			あり	1	
	受講後のフィードバック(結果通知など)	あり	1		
		なし、回答なし	0		



# アンケート点数化（教育・支援） 2/3

## 【サポート機能】

- ・ユーザーをより良い検索結果に導くための支援ツールが備えているかを評価
- ・小項目は、WGメンバーが認識している既存機能と、有ればなお良いと思われる機能を評価
- ・被教育対象者もグローバル化しており、サポート言語は多言語を評価

大項目	小項目・説明		基準	点数
サポート機能	サーチガイド	検索手法や式の入力方法に関するヘルプ機能があるか	あり	1
			なし、回答なし	0
	オンラインセミナー（ビデオ）	使用方法を映像で説明する機能があるか	あり	1
			なし、回答なし	0
	初心者モードとプロモード	検索経験の少ない技術者が簡単に使用できるモードと検索に長けた知財担当などが高度に使えるモードの切り替え	あり	1
			なし、回答なし	0
	検索語の入力補助機能	例：検索欄内や吹き出しにて入力例が表示	あり（複数）	2
			あり（1つ、回答なし）	1
			なし、回答なし	0
	特許分類の入力補助機能	例：予備検索、もしくはキーワードで候補IPC表示・選択し、検索式に自動反映等	あり（複数）	2
			あり（1つ、回答なし）	1
			なし、回答なし	0
	類義語の入力補助機能	例：シソーラスから検索式へ反映	あり（複数機能、他言語対応）	2
			あり（1つ、回答なし）	1
			なし、回答なし	0
	近傍検索の入力補助機能	例：近傍検索のコマンド演算子不要など	あり	1
なし、回答なし			0	
ユーザフレンドリーなヘルプ機能	例：ヘルプの該当箇所へのショートカットリンク等	複数機能	3	
		該当箇所へのリンク	2	
		基本機能	1	
		機能なし、回答なし	0	
ヘルプのサポート言語	例：英語のみ、日本語&英語など	日、英、中	3	
		日、英	2	
		日本語のみ	1	
		ヘルプなし、回答なし	0	



# アンケート点数化（教育・支援） 3/3

## 【概念検索】

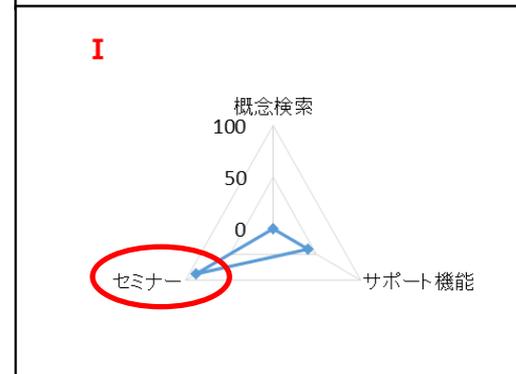
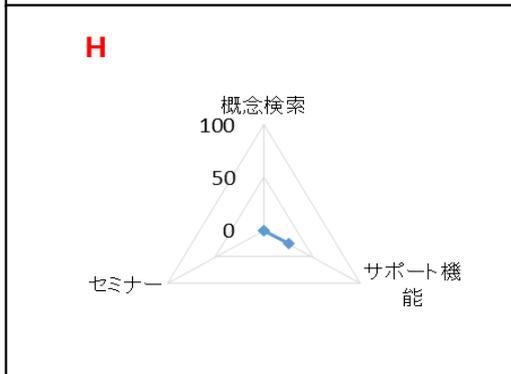
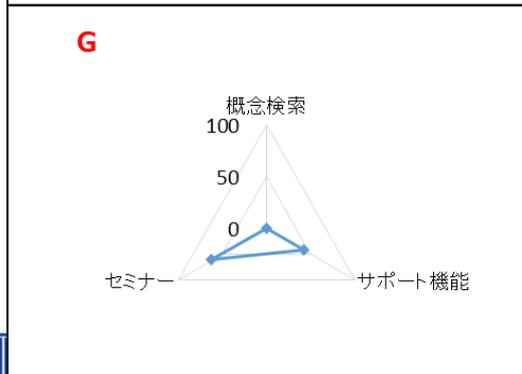
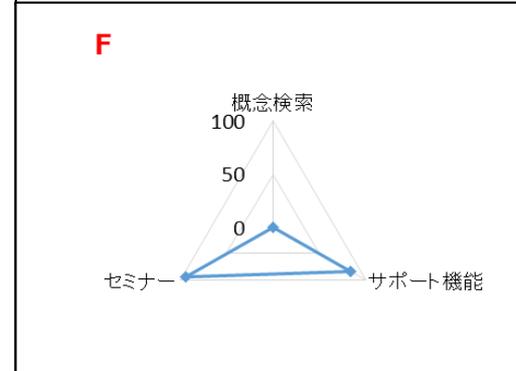
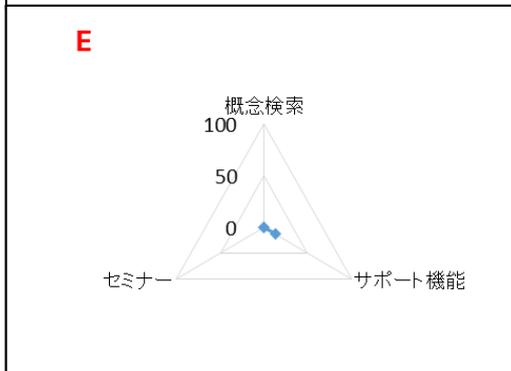
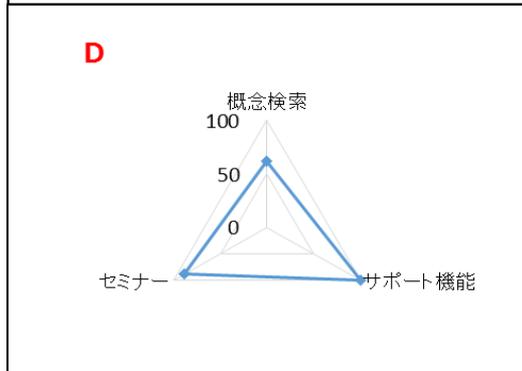
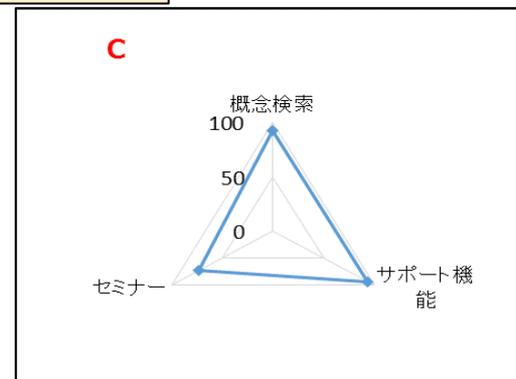
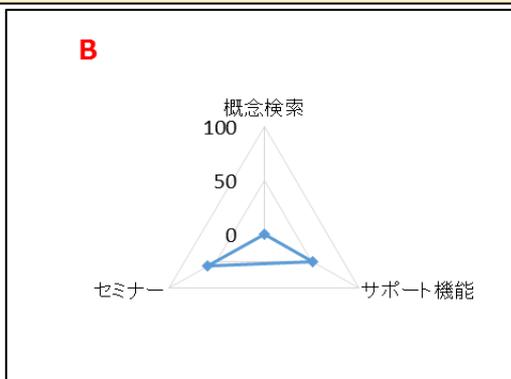
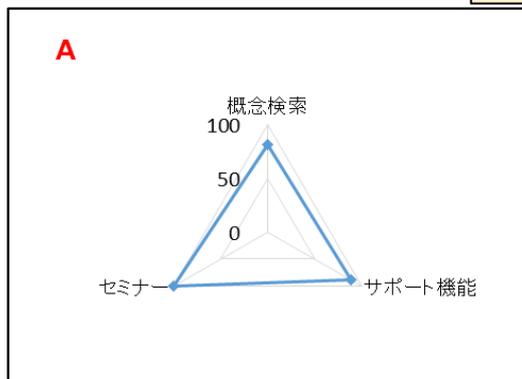
- ・ 検索に不慣れなユーザーも、目的に近い結果を手に入れることが可能
- ・ 検索対象国の広さ、検索対応言語について詳細に評価

大項目	小項目・説明	基準	点数	
概念検索	対象国	どの国か	J P, U S, E P, W O, C Nなどから3か国以上	4
		J P, U S, E P, W O, C Nなどから2か国	3	
		J P以外の1か国（日本版は別途あり）	2	
		J P	1	
		機能なし、回答なし	0	
	対応言語	対応言語を入力	他国語入力⇒日本含む他国検索	3
			日本語入力⇒日本含む他国検索	3
			他国語入力⇒他国検索（日本版は別途あり）	2
			他国語入力⇒他国検索（日本版はなし）	1
			日本語入力⇒日本検索（日本ベンダ）	1
			機能なし、回答なし	0
	検索対象項目	抄録のみ、請求項のみ、全文など	全文（要約、請求項含む）	2
			タイトル・抄録・請求項（全文含まず）	1
			機能なし、回答なし	0
	非特許文献検索の可否	非特許文献の検索も可能か	あり	1
			なし、回答なし	0
	絞り込み機能	特許分類コード、期間、キーワードなど	あり	1
			なし、回答なし	0
	重みつけ機能	機能の有無	あり	1
			なし、回答なし	0
表示結果	スコア、類似度（%）など	スコア or 類似度	1	
		なし、回答なし	0	
表示件数	1度に表示できる件数	制限なし	3	
		1000件以上	2	
		1000件未満	1	
		機能なし、回答なし	0	
ハイライト	機能の有無	あり	1	
		なし、回答なし	0	
概念検索のアルゴリズム	どのような情報を元に、集合を作成し、ランキングを付けているか等	単語と分類などを使用	3	
		単語のみ	2	
		未開示	1	
		機能なし、回答なし	0	



# レーダーチャート (教育・支援)

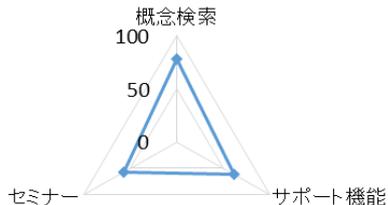
## 教育・支援の大項目3項目でのレーダーチャート



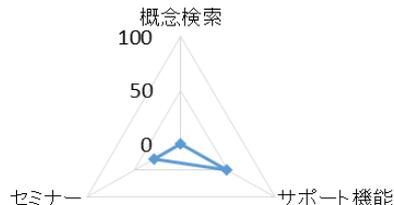


# レーダーチャート (教育・支援)

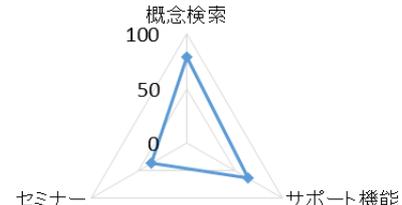
J



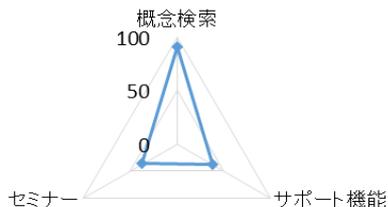
K



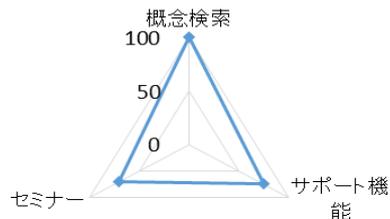
L



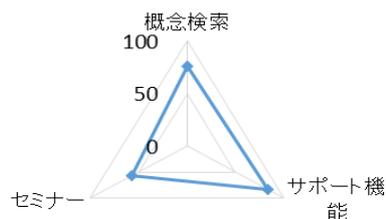
M



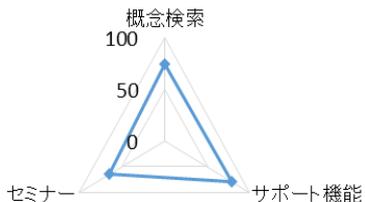
N



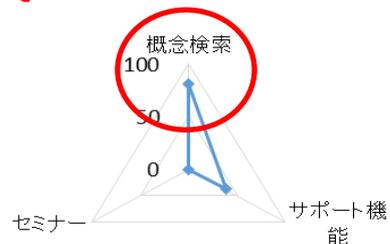
O



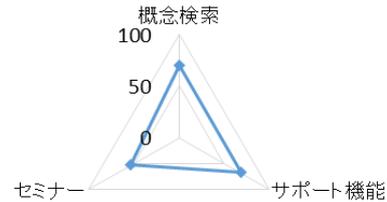
P



Q



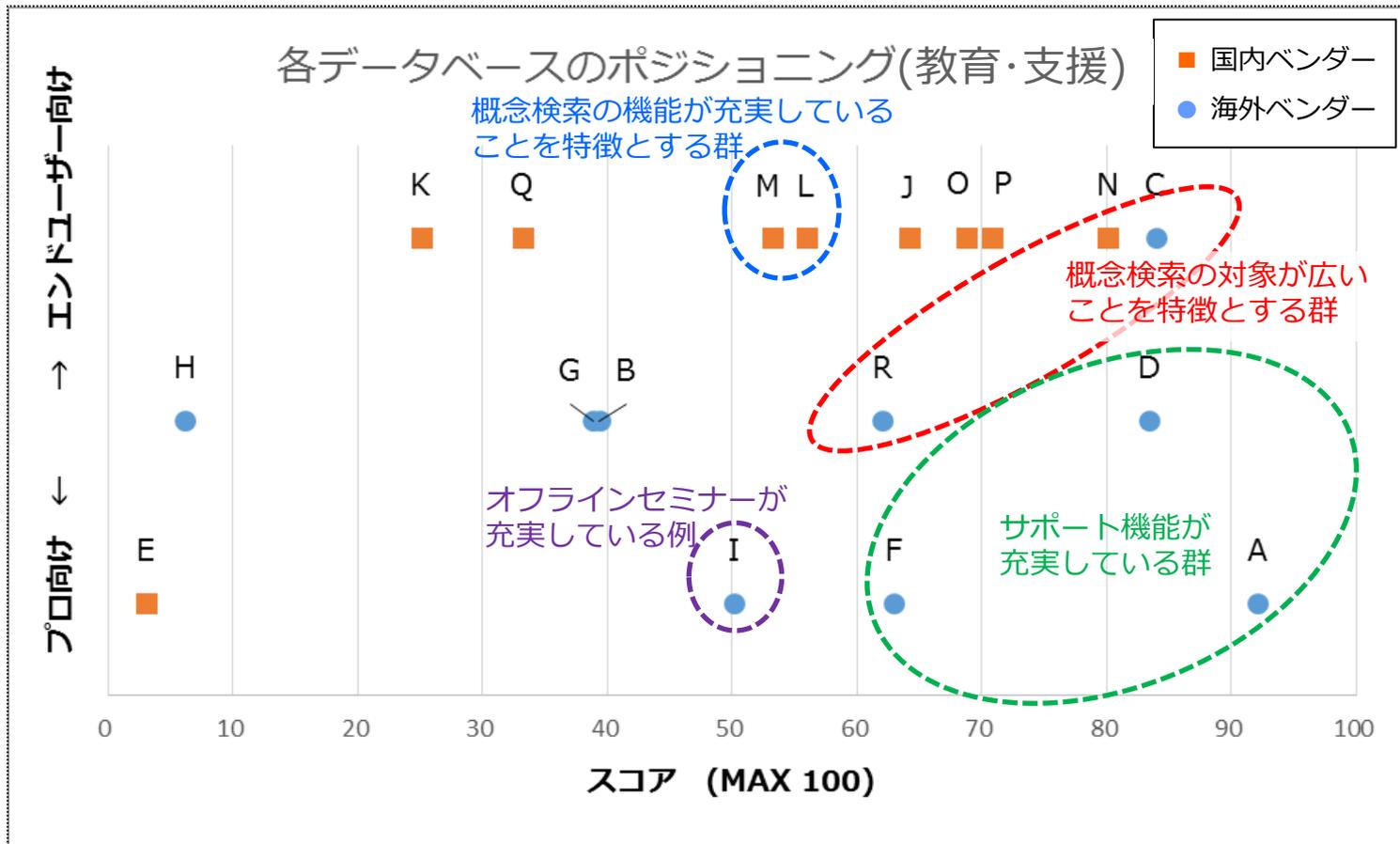
R



- ◆ 何れのDBも何らかのサポート機能を有している。また、セミナーも殆どのシステムで行われているが、ユーザ側の要望に応じたアレンジが可能であれば高得点となっている。
- ◆ 概念検索は機能自体が無ければ値が0になることから機能の有無で差が大きく見えてしまう



# ポジショニング（教育・支援）



- ◆ 概念検索できる対象（収録）に力を入れ、ワイドに調査できるDBと、対象は限定されつつも、調査結果に反映する機能で深く調査できるDBが存在する。
- ◆ 他言語仕様のデータベースであっても、ヘルプやサポート体制を充実させることにより、日本人ユーザーも安心して使用できるように体制が整っている。



## 4) まとめ



# まとめ

## ◆業務効率化課題

- 業務効率化を推進する上での課題を抽出。
- 上記課題に関連する機能・サービス情報をベンダー側からアンケート形式で収集。

## ◆検索効率化（収録）

- 収録やその表示機能では各DBに大きな差無し（解析・情報特化型を除き）
- 各種DBで法的情報の充実。活用を促進することで業務効率化が可能。

## ◆検索効率化（機能）

- 分析機能では大差なし。セマンティック検索や海外日本語検索などが特徴的。
- 項目に応じて機能差がある。利用目的に応じたDBの選定が必要。

## ◆教育・支援

- 一概に概念検索と言っても調査対象国や、その付随機能に差がある。利用者視点に立ったDBの選定が必要。
- 言語の壁を越えるべく、ヘルプやサポート体制の充実を図るベンダーが多かった。

- 商用特許DBに関して、知財情報担当者が感じている業務効率化に関する課題を抽出し、単なるカタログ値でなく、課題に関連する情報を入手
- DB導入時に着眼すべき視点として、各DBの業務効率化に寄与する機能やサービスの特徴を視覚化して提供



# 提言・要望

- ◆ まとめで述べた結果を踏まえ、以下にD B導入担当者への提言とD Bベンダーへの要望を述べる。

## 【D B導入担当者への提言】

- カタログ比較だけではなく、導入目的を明確にし、各D Bベンダーに積極的な情報提供を求める姿勢が必要
- 業務効率化に有用と思しきA Iツールに関する情報など、日頃から新しい検索ツールや技術の情報入手に努める  
(お薦め：J I P A情報検索委員会への参加)

## 【D Bベンダーへの要望】

- ユーザーのニーズはその時代の環境に応じて大きく変化するため、ニーズに即した柔軟な対応が取れる体制・サービスの強化が求められる
- 無料で使用可能な各国特許庁D Bの機能が近年更に充実しており、有料に見合う価値が得られるサービスの提供がなされることを期待



**ご清聴有難うございました**

～世界から期待され、世界をリードするJIPA～

